

世代	黄体ホルモンの種類 (プロゲステロン)	製品名	特徴
第1世代 1960年代	ノルエチステロン 	ルナベル LD/ULD※ フリウエル LD/ULD※ シンフェーズ	古典的なタイプのピルです。 低用量ピルの中でも比較的黄体ホルモンが多いため、副作用であるアンドロゲン作用（ニキビや多毛などの男性化症状）が比較的起こりやすい（強い）という特徴があります。
第2世代 1970年代	レボノルゲストレル 	トリキュラー アンジュ ラベルフィーユ ジェミーナ※	第2世代のピルは高い効果を得られますが、アンドロゲン作用が起こりやすい（強い）とされているため、ホルモン投与量を徐々に変化させ副作用の発症を抑えられる2相性や3相性ピルが主になっています。
第3世代 1980年代	デソゲストレル	マーベロン ファボワール	第3世代の低用量ピルはアンドロゲン作用が起こることは殆どありません。安全性が高く、以前の世代の欠点を改善されて作られたピルです。
第4世代 2001年～ ※副作用が 最小限	ドロスピレノン ※ニキビや浮腫みなどが気になる方ぬい適している ※PCOS合併の方にはアンドロゲン作用を抑える第4世代ピルがおすすめです	 ヤーズ※ ドロエチ※ 【ヤーズの後発品】 ヤーズフレックス※ ※PMS（月経前症候群）でお悩みの方は第4世代ピルが効果的です	自然な黄体ホルモンに近い成分であり、利尿効果を持つため浮腫みを改善させます。 第4世代のピルはアンドロゲン作用を抑える働きがあるのでニキビなどの症状が気になる女性向きです。 低用量ではなく、更に卵胞ホルモン量が少ない超低用量ピルと呼ばれる種類です。3相性ピル（第2世代）に比べてホルモンバランスの変化による副作用が少なく、低用量ピルで副作用を感じていた方でも安心して使えるピルです。

※マークは月経困難症に対する保険適用のピル

月経困難治療薬